

明治大学文学部 2026 年度 社会人特別入学試験 現代社会学専攻 解答例

【問 1】用語説明

① 資源動員論

資源動員論は、社会運動の生成と動態を「不満や感情」よりもむしろ、資金・人材・組織・ネットワーク・情報といった「資源」の確保と活用によって説明するアプローチである。運動の成功には、リーダーの戦略や既存組織との協力、政治や制度の状況を活かすことが重要とされる。資源動員論は、発展するにつれて、政治的機会構造、文化的フレーミング、動員構造を説明要因として組み合わせた枠組として洗練されていった。

② 社会生物学

社会生物学は、人間を含む生き物の社会的行動（助け合いや攻撃、性役割など）を、進化や遺伝子の残りやすさ（適応）の観点から説明する学問である。自分の遺伝子を残すために行動が進化してきたと考える点に特徴がある。一方で、人間の文化や社会の仕組みまで遺伝子だけで説明しようとする事への批判もある。生物学的な視点と倫理的な議論が交差する分野である。

③ ナショナル・トラスト

ナショナル・トラストは、19 世紀末のイギリスで始まった市民運動である。市民から寄付を集め、歴史的な建物や豊かな自然を買い取って保全し、公開する仕組みを指す。政府に頼らず、民間の力で地域の財産を「みんなの共有財産」として守る点に特徴がある。日本でも鎌倉の景観保存や知床の自然保護などで実践されており、市民が参加する環境保全のモデルとして高く評価されている。

④ シャドウ・ワーク

シャドウ・ワークは、思想家イヴァン・イリイチが提唱した概念で、給料は支払われないが、仕事や消費生活を成り立たせるために不可欠な「見えない労働」を指す。家事や育児、通勤、買い物での手続きなどがその代表である。これらは社会を維持するため

に非常に重要であるにもかかわらず、経済の数値（GDP など）には現れにくい。現代の働き方や生活構造を見直す重要な視点となっている。

⑤ 世界システム

世界システムは、イマニュエル・ウォーラーステインが提唱し、発展させた「世界システム分析」の基本的分析単位である。世界史や巨視的な社会変動を分析するためには、「国民国家」を単位とする従来の方法は不十分であり、より広い範囲に及ぶ、「労働分業と多元的な文化から成るひとつのシステム」である「世界システム」を基本的な分析単位とする必要があるとウォーラーステインは考えた。現在までに存在した世界システムは、ローマ帝国や古代中華帝国のような「世界-帝国」と、「世界-経済」の形態をとる「近代世界システム」に二分することができる。近代世界システムは、資本主義的な世界-経済の垂直的分業に従って、「中心地域」「半周辺地域」「周辺地域」に区分されるが、どの地域が中心となり、周辺となるかは、固定的ではなく、長期的にみて変動するとウォーラーステインは主張した。

解答のポイント

- ・選択した用語の内容を正確に説明する。
- ・成立の背景や特徴に触れる。
- ・シャドウワーク、世界システムを選択した場合は提唱者名を明記する。
- ・概念の意義や社会学における位置付けを説明する。

解答作成にあたって

選択した用語について、定義だけでなく背景や意義も含めて説明することが求められます。

【問 2】社会学への関心

解答のポイント

- ・設問で示された A・B のいずれか、または両方への立場を明確にする。
- ・社会変動への関心、または日常的な活動への関心について具体例を挙げる。
- ・なぜその対象に関心を持つのかを説明する。
- ・社会的に何を明らかにしたいのかを述べる。
- ・自身の問題意識と社会的視点との関係を示す。

解答作成にあたって

自らの関心や問題意識を具体的に示しながら、どのような社会学を志向するのかを論述することが求められます。